

平成28年度 学校自己評価表 (計画段階・実施段階)

福岡県立宗像高等学校長 印

学校運営計画(4月)		評価(3月)
学校教育目標	「明るく元気でたくましく、自ら励み、社会を力強く生き抜く宗高生」の育成 一生徒自らが成長を実感できる教育活動を通して	
学校運営方針	教育目標の具現化に向け、分掌・学年等がこれまで以上に強く連携を図りながら共通理解を深め、職員一丸となって邁進する学校体制を構築する。また、本年4月に宗像中高一貫教育校として、6年間を通してダイナミックな教育活動を実践・展開し、校訓の精神のもと全職員の叡智を結集して、高等学校の魅力をもっと高めるとともに、より一層の地域からの信頼獲得に努める。	
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標
<p>分掌や学年間での連携や協力が密に行われ、教職員間の意思疎通も良くとれており、組織的に教育活動を展開することができた。また、中高一貫教育校としての基礎づくりも順調に進めることができた。その結果、行事や日常の教育活動において、生徒の積極的な取組が見られ、明るく元気でたくましい生徒の姿を見ることができた。また、学習記録「夢に向かって」を効果的に利用することで、生徒に寄り添ったきめ細かい指導を行うことができた。</p> <p>課題として、中高一貫教育校として2年目を迎え、分掌の業務内容の見直しや学校行事等の運営についても新たな視点が必要となる。また、高等学校の教育内容を更に魅力あるものにし、地域からの信頼をより深めたい。職員の叡智を結集し、さらに連携を深めることで新たな課題に向かっていきたい。</p>	<p>【教育計画】教育目標の実現を目指し、本校の学習指導についての工夫改善を図るとともに、共通認識のもとで生徒の学習意欲の向上や学習習慣の確立を実現し、基礎学力を定着させる。</p> <p>【企画広報】伝統を継承しながら新たな学校文化を創造するために、他の分掌や中学校との連携を更に深め、魅力ある教育活動を実現するための教育力や学校力を高める</p> <p>【生徒育成】質実剛健の精神に基づき、全職員の共通理解と生徒指導力を高め、規範意識が高く思いやりの心と高い志を持ち、目標達成に向けて挑戦する生徒の育成を目指す。</p> <p>【保健環境】保健・美化・環境委員会活動を通じて、生徒自ら健康増進・学校環境の向上を図る生徒を育成する。</p> <p>【進路指導】自己の将来についての高い志と展望を持ち、その実現に向けて自ら励み力強く歩んでいく生徒を育成する。</p> <p>【図書】自ら読書に励み、知識と感性を深めることにより、他者とのつながりを意識しながら、よりよい社会を築く意欲を持った、しなやかな知性と創造性を育む。</p> <p>【研修】本校の教育的課題を考慮し、職員のスキルアップにつながる研修を実施するとともに、生徒の自ら学ぶ意識を向上させ学校生活の充実を図る。</p> <p>【1年】高校生として、生活面・学習面における基礎基本を身につけた明るく元気でたくましく、自ら励む生徒を早期に育成する。</p> <p>【2年】中堅学年としての自覚を持ち、それぞれの夢に向かって努力を惜しまず継続するとともに、周囲への思いやりの心を持った明るく元気でたくましい生徒を育成する。</p> <p>【3年】最高学年としてのリーダーシップを明るく元気に発揮するとともに、進路実現のために努力を惜しまない、たくましく志高い生徒を育成する。</p> <p>【教育力向上】生徒が志高い進路目標を持ち、その実現のために力強く歩んでいく力を育成する。また、確かな学力を育成するために教員の指導力の向上を図る。</p> <p>【いじめ・不登校】「学校いじめ防止基本方針」に則り、いじめや不登校の未然防止や早期発見・早期対応に向けた取組の一層の充実を図り、学校を挙げて組織的に対応する体制を整える。</p> <p>【特別支援】学校・家庭・地域・関係機関の連携による特別支援教育を充実させ、個人の教育的ニーズに応じた的確な支援を行う。</p> <p>【人権・同和】人権尊重の精神に基づき、さまざまな人権・同和問題に対する科学的認識に基づいて、知的理解を深めるとともに人権感覚を養い、差別を許さない強い意志と実践力を持った生徒の育成に努める。</p>	<p>学習指導に関する共通理解を深めることで、授業の魅力をもっと高める。生徒一人ひとりに様々な角度から寄り添い、学習習慣の確立と学習意欲の向上を図る。各種業務の内容と手順を検討し、円滑な教育活動の支援ができるようにする。</p> <p>中高一貫教育校としての儀式的行事や父母教師会活動の運営について内容の充実に努める。中高一貫教育校の魅力をもっと近隣の中学校や地域に積極的に発信する。創立100周年に向けた情報収集の準備を行う。</p> <p>高い規範意識と自律の精神を持ち、好感の持てる挨拶ができる生徒の育成。交通安全指導により、安全に対する実践力を備えた生徒の育成。生徒会活動・部活動の活性化により、自律と思いやりの精神と目標達成に向けて挑戦し続ける生徒の育成。</p> <p>委員会活動の更なる活性化と充実を図ると共に、健康に対する意識の向上にも努める。清掃活動、節電の推進、教育相談等による心身両面でのサポートを充実する。</p> <p>学習量の確保を大前提に、「夢に向かって」の有効的な活用を促し、学年、教科、中学校との連携をより密に図りながら、生徒一人一人に寄り添ったきめ細かい進路指導を目指す。</p> <p>自主的な「15分間読書」の推進と読書に親しむ入口を広げる工夫、中高一貫体制を生かした図書館行事への改善、図書委員会の自主的活動の促進。</p> <p>教職員の資質向上のための職員研修の実施及び研修への参加を促す。生徒の言語活動の一環としての弁論大会の充実、大学や小中学校、地域の諸機関との連携・協力の推進。</p> <p>学習の習慣を図り、バランスのとれた基礎学力の育成に努める。適切な進路指導により積極的に自らの未来を切り拓く姿勢を養う。高校生としての基本的な生活習慣の確立を早期に図る。学校行事や部活動へ積極的な参加を促す。</p> <p>学習の習慣化による学力の伸長。適性・興味・関心に応じた適切な進路指導。学校・学年行事や部活動に積極的に取り組むリーダーシップを持った生徒の育成。豊かな人間性・社会性を身につけた誠実に生きる姿勢を持った生徒の育成。</p> <p>進路実現のための十分な学力の育成、進路希望に応じた適切かつ手厚い進路指導による志高く自らの進路実現に努力する姿勢の養成、志高く自らの進路実現に努力する生徒の育成、豊かな人間性と正しく生きる姿勢を持った思いやりのある生徒の育成</p> <p>中高一貫教育における教育力の向上を図るため、教員の指導力向上のための各種研修の充実。生徒の実態に即したカリキュラムの検討。</p> <p>いじめ等のアンケートの定期的な実施による実態把握・未然防止・早期対応、教育相談を充実させ全職員の共通認識の下で行う生徒支援。</p> <p>中学校や家庭、関係機関と連携し支援を必要とする生徒の多面的実態把握。校内委員会を適宜開催し指導・支援方法を検討することで図る職員間の共通理解。</p> <p>差別の要因となる偏見を排除し、人の大切さを認める意識が態度や行動に現れる生徒の育成を図る。生徒が積極的に参加し、自ら考え、判断し、理解を深めることのできる人権学習を計画し、実践していく。生徒を取り巻く環境や生徒の実態を把握し、学力と進路の保障に努める。</p>
	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
教育計画	学習指導に関する共通理解を深めることで、授業の魅力をさらに高める。	授業における「三つの構え」を基に、授業規律に関する共通認識を深める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価に関する取組を進める ・6学年体制における時間割運用や変更への対応 ・マニュアル作成の継続
		教育課程、教務内規についての検討を続けるとともに、観点別評価に関する具体的な取組を始める。	B		
		定例会議によって議論を深め、学習評価に関する共通理解を生み出す。	A		
	生徒一人ひとりに様々な角度から寄り添い、学習習慣の確立と学習意欲の向上を図る。	自学自習時間調査の内容を検討し、個別指導で活用しやすくすることで、生徒の学習意欲を喚起する。	A	A	
		定期考査の事前・事後指導を充実させることにより、生徒一人ひとりの学習習慣を確立させる。	A		
		学年や進路指導部と連携し、生徒が主体的に類型選択・教科選択ができるよう、計画的に指導する。	A		
	中高一貫校として、各種業務の内容と手順を検討し、円滑な教育活動の支援ができるようにする。	各係・分掌と連携を図り、時間割や施設の円滑な運用ができるよう計画を立てる。	A	A	
各業務におけるマニュアルの作成を進めるとともに、チェック体制を検証し、確立していく。		A			
生徒の記録や資料を適切に作成し、様々な教育活動の中で活用しやすいよう、管理・保存する。		B			
企画広報	中高一貫教育校としての儀式的行事や父母教師会活動の運営について内容の充実に努める。	学校沿革資料「宗高の精神」を有効に活用し歴史と伝統を重んじながら、中高一貫教育校としての儀式・式典や学校行事を充実させる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・父母教師会の在り方を検討する ・業務を分担し、円滑に進められるようにする
		学年や他分掌、中学校との連携により、円滑かつ組織的に運営できる行事を推進する。	A		
		父母教師会役員・評議員との連携を深め中学校と連携をとりながら、これまでの活動を振り返ることにより、新たな父母教師会活動の基礎をつくる。	B		
	中高一貫教育校の魅力を近隣の中学校や地域に積極的に発信する。	さまざまなツールを用いて、学校行事の案内や教育内容の紹介を積極的に行う。	B	B	
		各分掌・学年・部活動顧問との連携を密にして、情報を提供してもらい、学校案内・ホームページ・学校紹介ビデオ等の内容をさらに充実させる。	B		
		中高一貫教育の実施によるメリットを、地域や地元の中学校に広く広報する。	B		
	創立100周年に向けた情報収集の準備を行う。	創立100周年を見据えて、具体的な取組の準備と、あらゆる角度からの情報収集・管理を行う。	B	B	
同窓会との連携を密にし、相互に協力する体制を整える。		B			
	情報収集の簡略なシステム作成と、個人情報の保護に関する情報発信規定を作成する。	B			
生徒育成	高い規範意識と自律の精神を持ち、好感の持てる挨拶ができる生徒の育成を目指す。	週1回生徒育成部の会議を実施して、生徒の現状について情報交換を行い、具体的対応策を検討し、全学年統一した指導を行う。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・指導について、全職員で共通理解を図る必要がある ・個の指導と集団の意識の指導(思いやり・責任感) ・送迎を含む交通マナーや高校生としての規範意識の向上
		必要に応じて、全校集会や学年集会を開き、規範意識の高揚や自己責任能力と道徳心の育成を図る。	B		
		安全な学校生活の確立を目指し、全職員による校内外巡視を毎週実施する。	A		
		好感の持てる挨拶や他者への思いやり・マナーを身に付けた生徒を育成する。	B		
	交通マナーの向上・交通ルールへの遵守を通して、安全に対する実践力を備えた生徒を育成する。	登校時の交通安全指導を定期的に行い、交通規則の遵守とマナーの向上を目指す。	B	A	
		交通事故防止のため、生活安全教室・自転車点検を実施する。	A		
		自転車通学生の任意保険加入を徹底する。	A		
	生徒会活動や委員会活動への積極的参加を促し、その体験を通して自律と思いやりの精神を育てる。	各種委員会の目標や活動内容を周知し、活動意欲を高める。	B	A	
		生徒会活動への積極的参加と協力体制づくりのため、リーダー養成研修を実施し、各行事を更に充実させる。	A		
		生徒会執行部の会議を週1回定例化し、各委員会の活動状況等について情報交換をすることにより、生徒会活動の充実と活性化を図る。	A		
	部活動を通して、リーダーを育成するとともに目標達成に向けて挑戦し続ける精神を育てる。	賞状伝達式・壮行会等の充実、並びに部活動紹介の実施と競技日程や結果等の広報活動を充実させる。	A	A	
		部室の整備を行い、部室使用の指導や部室検査を徹底する。	B		
部活動の更なる活性化を図り、部活動加入率80%以上の維持と公式大会の上位進出を目指す。		A			
	部長会による部活動間の連携を図る。	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
保健環境	保健・美化・環境委員会活動の活性化と充実を図る。	各委員会から定期的に広報活動を実施する。	A	A	・運動器検診の事後指導 ・清掃方法の確立と美化委員会の積極的活動 ・カウンセリング室の整備
		各委員会の定例会を実施する。	A		
	自らの健康への意識を持った生徒を育成すると共に配慮を要する生徒への速やかな対応をする。	保健カードの利用により、養護教諭・担任・学年の連携を図り生徒の健康管理及び保健指導を行う。	A		
		配慮を要する生徒の情報を、拡大学年会で共有し共通理解を図り、速やかに対応する。	B		
		身体測定、健康診断を通して自らの健康状態を把握し、健康増進に努める態度を育成する。	A		
	美化意識を高め、積極的に校内美化を推進する生徒を育成する。	スクールカウンセラーの活用について、中学校と情報を共有する。	B		
		年度当初に清掃マニュアルのDVDを見せることで、生徒に美化意識を持たせ日々の清掃を徹底するとともに、職員の意識高揚を図る。	A		
		月目標や大掃除、清掃コンクールを実施することで、自ら進んで掃除を行なう生徒を育成する。	A		
節電を中心にエコ活動や環境整備の推進を図る。	環境委員を中心に、全生徒の節電に対する意識を向上させ、自ら節電に努める生徒を育成する。	B			
	各種リサイクル活動の継続と花いっぱい運動など、校内の環境整備を行なう。	A			
進路指導	高い志と展望を持ち、その実現に向けて自ら励み、力強く歩んでいく生徒を育成する。	各学年で年間1回以上、卒業生による進路講話を実施する。	A	A	・中学校との連携を密にし、中高一貫校としてのキャリア教育の構築を行う
		希望制模試を積極的に導入する。	A		
		センター試験後に二次試験対策講座と小論文・面接対策スキルアップ講座を実施する。	A		
	生徒一人一人に寄り添ったきめ細かな進路指導を実践する。	「夢に向かって」の有効的な活用を促す。	A		
		年間計画の面談以外にも、必要に応じて随時面談を実施し、適切な指導・援助を行う。	B		
	新課程入試に対応する指導体制を確立する。	3年生において、新旧担任会と年2回の進路検討会を実施する。	A		
		新課程入試に対応する課外全般の見直しを行う。	B		
	新課程入試に対すべく、進路情報の共有を全職員で図る。	B			
	中学校との連携を密にし、中高6年間を見通したキャリア教育の構築を図る。	B			
図書	自主的な「15分間読書」の推進と読書に親しむ入口を広げる工夫	生徒の発達段階に応じた図書を選定し、手に取りやすい環境を整える。	A	A	・読書会の素材の蓄積と討議を深める工夫 ・図書館行事や図書についての広報活動の更なる拡充 ・高校生の貸し出し数の減少
		より多くの先生方に「先生方からのお勧めの本」への協力を呼びかける。	A		
		話題の本やお勧めの本をアピールするポスターを図書館外(廊下等)にも掲示する。	B		
	中高一貫体制を生かした図書館行事への改善	各図書館行事における中学生図書委員と高校生図書委員の連携を強化する。	B		
		読書会の質的向上を目指し、継続してテキストや実施方法を検討する。	A		
	図書委員会の自主的活動の促進	『文苑』の内容を中高一貫体制に対応した形に整える。	B		
図書委員作成のポスター掲示により、図書館行事の楽しさをアピールする広報活動を積極的に行う。		A			
	図書委員の意見を積極的に取り入れ、生徒各自が達成感と成長を実感できる自主的運営を促す。	B			
	図書委員の編集による図書館通信「ライブラリー」を年6回以上発行し、委員としての自覚を育む。	A			
研修	本校の教育的課題を考慮し、職員のスキルアップにつながる研修を実施する。	教職員の資質向上を目指した研修内容を実施する。	A	A	・研修参加へ体制を整備する ・「学校の日」の在り方を検討する
		学習指導要領に即した授業研究を各教科で実施する。	A		
		中高一貫教育の研究を、他分掌と連携して、授業改善等に関する研修を実施する。	B		
	生徒の自ら学ぶ意識を向上させ、学校生活の充実を図る。	授業アンケートを実施し、生徒の学校生活の充実を目指す。	B		
		生徒に、自己の思いを自分の言葉で表現する力を高める機会を与えるために、弁論大会を計画・実施する。	A		
	他の機関との連携・協力を図る。	大学や小中学校、地域の諸機関との連携をとり、情報の収集・発信に努める。	B		
小中学校への出前授業を実施する。		A			
	宗像市「学校の日」に、保護者や地域への公開授業を実施する。	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
第1学年	学習の習慣化を図り、バランスのとれた基礎学力の育成に努める。	授業を最重視させ、予習・復習の徹底を図り、1日130分以上の自己学習を習慣化させる。	B	A	・学習習慣が身についていない生徒への指導と、基礎学力の定着 ・進路目標の具体化 ・自主性の育成
		各教科の小テストや課題に誠実に取り組ませ、基礎学力の定着を図る。	A		
		総合的な学習に積極的に取り組ませ、自ら学び表現する能力の育成を図る。	A		
	適切な進路指導を行うことにより、積極的に自らの未来を切り拓く姿勢を養う。	「夢に向かって」を継続的に記録させ面談等に活用することで、個に応じた指導を行う。	A	A	
		土曜活用日や総合的な学習の時間を活用し、進路意識の啓発に努め、適切な文理選択につなげる。	A		
		課外授業の充実を図り、基礎学力の定着を目指す。	A		
高校生として基本的生活習慣を早期に図るとともに、学校行事・部活動への積極的な参加を促す。	基本的生活習慣の指導を重視し、社会的マナーと礼儀をわきまえた生徒の育成を図るとともに、他人に対して思いやりを持った生徒に育成を目指す。	A	A		
	欠席・遅刻・早退の状況を把握し、家庭との連絡を密にして、欠席率を3%以内とする。	A			
	学校行事や部活動へ積極的な参加を促し、社会性やリーダーシップの育成を図る。	A			
第2学年	より一層の学習の習慣化を図り、バランスのとれた学力の伸長を目指す。	授業を最重視する姿勢に基づいた予習・授業・復習のサイクルを継続し、各教科における小テストや課題に真面目に取り組む、学力の向上に努めさせる。	B	B	・学習習慣が身についていない生徒に対する指導 ・最高学年として、後輩の手本になるような躰や規範意識の高揚 ・リーダーシップの育成 ・進路に関する情報の発信
		「夢に向かって」を学年全体で活用し、個人面談も取り入れながら、1日150分以上の自学自習を習慣化させる。	B		
		総合的な学習や土曜活用日に積極的に取り組ませ、それぞれの課題を見つけ、自ら学習する習慣を身につけさせる。	B		
	適性・興味・関心に応じた適切な進路指導を行い、志高く積極的に自らの未来を切り拓く姿勢を養う。	「夢に向かって」の活用や個人面談を通して、目指すべき進路目標をより具体化させる。	A	A	
		スタディーサポートや模試の結果を分析し、今後の学習指導に活かすとともに、生徒にも自己採点や自己分析をさせて具体的学習目標を持たせる。	B		
		進路に関する講演等を企画し、進路意識の高揚を図る。	A		
学校・学年行事や部活動への積極的な取組を促し、自主的に考え、積極的に行動できるリーダーシップを持った生徒を育成する。	規範意識と他者を思いやる心を持った生徒の育成を目指し、挨拶・清掃を中心とした躰指導を行う。	B	B		
	欠席・遅刻・早退の状況を把握し、家庭との連絡を密にし、学年全体で適切な指導を行うことで欠席率を3%以内におさえる。	A			
	修学旅行・学校行事・部活動や生徒会活動等への積極的な参加を促し、リーダーシップ溢れる生徒の育成に努める。	B			
第3学年	進路実現のための十分な学力を育成する。	授業最重視の姿勢を確立させ、予習・授業・復習の学習サイクルを徹底させる。	B	B	・1年次からの継続的な生徒指導 ・基本的生活習慣を確立させる
		「夢に向かって」を活用した生活習慣の確立と、1日210分以上、週1500分以上の学習を習慣化させる。	B		
		基礎・基本の徹底と応用力養成のために、土曜活用日において特別講座を実施する。	A		
	進路希望に応じた適切かつ手厚い進路指導を行う。	学年集会・類型別集会・HR活動を適切な時期に実施し、意識の高揚を図る。	A	A	
		総合的な学習の時間等を利用し、計画的に小論文や英語のリスニング対策を講じる。	A		
		「夢に向かって」や面談を通して、コミュニケーションの更なる充実を図る。	A		
最高学年として学校を牽引していく自覚と統率力を持った生徒を育成する。	最高学年として、自覚を持った礼節ある生活態度を育成するため、学年全体で継続的な生徒指導を行う。	A	A		
	学校行事・部活動・勉強において明るく元気に頑張っている姿で、後輩にリーダーシップを示すことができる生徒の育成を図る。	A			
	欠席・遅刻・早退の状況を正しく把握し、家庭との連絡や面談等により欠席率を3%以内とする。	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
教育力向上	中高一貫教育における教育力の向上を図る。	中学・高校の生徒の実態に則し、発達段階を踏まえた指導法の研究を進める。	B	B	・次年度も4つの具体的方策について、継続して検討していく
		受験制度の変更に最適な対応と生徒の実態の即したカリキュラムの検討を行う。	B		
	I C T活用に関する校内研修をより一層充実させる。	A			
	生徒の外部団体の研修応募について、年間を見据えて効率的に運用する。	昨年度までに行った年間の研修応募状況をもとに、本校の教育活動の目標に沿った研修を精査し、年間を見据えた運用を行う。	A	A	
いじめ・不登校対策	学校いじめ防止基本方針」に則り、いじめや不登校の未然防止や早期発見・早期対応に向けた生徒指導の一層の充実を図る。	年度当初に校内での職員研修を実施し、全職員による共通認識を図る。	A	A	・次年度も「学校いじめ防止基本方針」に則り、アンケートやいじめ・不登校対策委員会等の取組を着実に実施し、適切な支援方法を検討・実施する
		いじめ等のアンケートを月1回実施し、実態把握・未然防止・早期対応に努める。	A		
		保護者に対するアンケートや講演会の実施等により学校・家庭・地域との連携を図る。	A		
	年間を通して生徒一人ひとりの状況把握に努め、学校を挙げて組織的に対応する体制を整える。	拡大学年会議2回・チェックリストの回覧5回を実施し、全関係職員による共通認識・連携を図る。	A	A	
		定例のいじめ・不登校対策委員会を年5回開催し、問題を抱える生徒の状況把握・改善に向けた取組を進める。	A		
	教育相談の適宜実施・月1回のスクールカウンセラーによる面談の実施等により生徒の進路について考え、支援する。	A	A		
特別支援教育推進	配慮を要する生徒一人ひとりの教育的ニーズを正確に知り、実態把握に努める。	中学校や家庭、関係機関と連携し情報収集を多面的に行う。	B	A	・特別支援教育についての研修会の開催 ・委員会の定期開催による、生徒の実態把握
		教育相談Σやサポートヒントシートを活用し生徒の実態把握を行う。	A		
	校内支援体制を整え、配慮を要する生徒に対する的確な支援を行う。	特別支援教育推進委員会や拡大学年会議等で情報交換を行い、職員間の共通理解を図る。	A	B	
		個別の支援計画・指導計画を作成し、支援方針・内容を共有する。	B		
		家庭や地域・関係機関と連携し、チームワーク体制を整える。	B		
	職員研修を実施し、個々の教師の特別支援教育に対する専門性の向上を図る。	B	B		
人権・同和教育推進	差別の要因となる偏見を排除し、それぞれの存在の大切さを認める意識が、態度や行動に現れる生徒の育成を図る。	生徒の人権感覚の深化につながるように、人権・同和教育を計画していく。	A	A	・個別的人権課題や、今日の人権課題についての研修会の開催。 ・人権・同和学習指導案の改善。 ・校外研修会への参加推進。
		本校の教育活動の各場面を機会として、積極的に活用し、それぞれに応じた人権・同和教育を推進していく。	A		
	生徒が積極的に参加し、自ら考え、判断し、理解を深めることのできる人権学習を計画し、実践する。	3年間を通じた人権・同和学習の効果的実施につながる、指導案づくり、事前研修を綿密に行う。	A	A	
		生徒の人権感覚の深化につながるように、自ら考え、行動するため、体験的参加型学習を計画、実施する。	A		
	生徒を取り巻く環境や生徒の実態を把握し、学力と進路の保障に努める。	本校の実状に即した、校内研修を実施することにより、教員の指導力向上を図る。	A	A	
	特定の教員だけでなく、幅広い教員の校外の研修会への積極的参加を促すことにより、教員の指導力向上を図る。	B			